



高岡商工会議所会報

料金後納郵便

ゆうメール

毎月1回5日発行
令和7年12月5日発行
昭和30年5月20日
第三種郵便物承認

12

2025
December

NO.812

たかおか



[特集] 正副会頭が高岡市に提案要望を行う

クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」伏木港に寄港

正副会頭が高岡市に提案要望を行う

10月28日(火) 塩谷雄一会頭はじめ、能作克治、菅野克志、二口真、中村正治各副会頭、西田隆文専務理事並びに当所青年部藤田和耕会長らが高岡市役所を訪れ、出町譲市長に令和8年度の市予算編成に向けた要望書を手渡しその実現を求めた。

今回の提案要望は、「令和6年能登半島地震に伴う被災事業者支援について」や「市庁舎の機能移転を含めた高岡駅南口の旧ダイエー跡地の利活用について」など重点要望3項目を含む16項目の他、青年部からの5項目を加えた21項目。



重点要望事項

※Nは新規項目。要望事項については 一部抜粋して掲載しています。

N 1. 令和6年能登半島地震に伴う被災事業者支援について

令和6年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」での公共インフラや工場・店舗の物的被害によって、未だ震災前の事業活動には至っていない事業者も多く存在する状況であります。

高岡市においては、各種の震災関連施策を速やかに対応いただいていることに感謝申し上げますが、被害が甚大なことから長期間にわたり被災事業者への支援が必要になると考えられます。

については、インフラ整備等の着実な実施とできる限り早い着手、並びに各種支援策の取扱い期間の弾力的な運用等、被災事業者により一層寄り添ったものになるよう格別なご配慮をお願いします。

2. 市庁舎の機能移転を含めた高岡駅南口の旧ダイエー跡地の利活用について

高岡市においては、新庁舎整備への検討の進め方について見直しを決定され、また、旧ダイエー跡地（高岡駅南口）の利活用の議論も慎重に進められる予定であります。

経済界としては、高岡駅周辺に市庁舎の機能移転を進める等、オフィス空間を拡大することは、公的サービスへの市民のアクセス環境を高めるとともに勤務する人が増え、中心市街地に多くの人が訪れる基盤となり、高岡の玄関口としての賑わい向上に寄与するものと考えています。

方策として、高岡駅南口の旧ダイエー跡地に、PPP・PFI等の民間資金・活力を用い市庁舎の本体機能移転・オフィス空間の拡大を促進するとともに、市民窓口等のサービ

ス部門をウイング・ウイング高岡等への移転を進めることができます。

については、来訪者の滞在が増えることによる経済効果とともに、高岡駅南北の交流を促し、中心市街地の住みやすさ向上により居住密度を高める効果も期待される方策を、経済界とともに協議を推進していただきますようお願いします。

3. 中心市街地及び新高岡駅間のウォーカブルの推進について

「中心市街地（歴史文化エリア）」と「新高岡駅周辺（交流人口拡大エリア）」を結ぶ二次交通の利便性向上は重要な事業でありますが、鉄軌道計画は実現まで長期間を要する見込みであり、その間も回遊性向上に向けた取り組みが不可欠であります。特に、この2つのエリアを徒歩でも快適に行き来できる環境整備は、観光振興や地域活性化に直結するとともに、中心市街地においても、高岡駅を起点とする末広町通り、歴史的な街並みが残る山町筋、金屋町、高岡古城公園へ歩いて楽しめるまちを進めることができます。

そのため、歩車分離式信号機等による高岡駅と末広町通りを結ぶスムーズな地上横断の確保、歩道の幅員確保、休憩空間の設置、誘導サインや夜間照明の整備に加え、道路空間の活用による賑わい創出・モデルコースの設定等、歩いて楽しめるウォーカブルな歩行動線整備を計画的に推進する必要があります。

については、鉄軌道事業の進展を見据え、その効果を最大限に高めるためにも、当該エリアの最重点施策と位置付けていただき、経済界と連携し、社会実験等を通じた課題把握を行いながら、ウォーカブル施策を積極的に推進していただきますようお願いします。

要望事項

〈中小企業対策〉

1. 中小企業・小規模事業者支援における事業連携強化について

- N (1) 高岡市が検討する「ビジネスサポートセンター」設立協議への参画
(2) 当所経営指導を必須とした小規模事業者向けデジタル活用への補助制度の拡充
(3) 地場産業者の国内バイヤー、海外事業者との商談会や県外、海外での展示会出展における支援強化及び事業連携の推進
(4) 高岡市創業支援事業者補助金（創業者等支援事業）における継続支援

2. 「パートナーシップ構築宣言」の推進支援について

3. カーボンニュートラルに向けた対応について

4. 防災（減災）対策に取り組む事業者への支援強化について【継続】

- (1) 防災（減災）機能を有する減価償却資産取得に係る固定資産税の減免
(2) 事業継続力強化計画策定事業者に対する補助制度及び融資制度等の支援措置の検討

〈中心市街地活性化〉

5. 空き店舗・空き家活用を通じた中心市街地の活性化について

- (1) 第4期中心市街地活性化基本計画の確実な推進
(2) 空き店舗・空き家活用（既存補助金の拡充等）とまちなか居住の更なる促進
(3) 御旅屋セリオへの生活用品店、ベンチャー企業等の誘致による早期再
(4) 高岡駅前東地区の整備促進

〈地域振興対策〉

6. 高岡テクノドーム別館整備に伴うコンベンション誘致及び受入環境の推進について

7. 高岡法科大学閉学予定への対応及び高等教育機関の誘致について

- (1) 高岡法科大学の建物や教育人材の有効活用について、高岡オフィスパークに相応しい分野（例：デザイン、クラフト、IT・DX）での県内公立大学の誘致や新たな公立大学の設置等、具体的な計画策定及び提案の早期実施
(2) 読売会館周辺の高岡駅前東地区整備促進とともに、その核として高岡駅前への高等教育機関を要望する声も多く、若者・女性に支持され、社会人も技能取得が可能となる分野（例：医療系経営学、IT・DX、観光・ホテル学、デザイン、職人養成、外国語等）の複数の国公私立大学・大学院や専門学校等の誘致活動への支援

〈観光対策〉

8. 観光産業の育成に向けた施策強化について

- N (1) 市及び観光に関する機関（観光協会、まちづくり会社等）の連携強化
(2) 観光サービス関連業種（宿泊施設、飲食店、土産品店等）出店への継続的な支援
(3) 休憩スポット・公共トイレ等の案内標識・各種媒体でのPR及び公共施設内の多言語対応・QRコードによる説明、無料Wi-Fiの整備等インバウンド対応の強化
(4) 二次交通（シャトルバス、デマンド交通等）の充実
(5) 県西部地域の主要な観光地・祭り・イベントの更なる連携強化
(6) 山町筋（守山町側）への大型観光バスの通行規制解除
(7) 勝興寺周辺の整備促進及び賑わい創出事業への支援
(8) 「高岡古城公園樹木管理行動計画」の早期実施及び国指定史跡としての価値向上

9. JR城端線・氷見線における直通化と利便性向上等の早期実現について

- (1) 確実な「城端線・氷見線鉄道事業再構築実施計画」の実行
(2) JR城端線・氷見線の直通化の早期実現
(3) あいの風とやま鉄道との接続改善及び万葉線の将来的な氷見線・城端線への乗り入れを含めた一体化の研究・推進

〈地域開発〉

10. 伏木富山港の整備促進について

- (1) 伏木外港C工区用地の造成と岸壁の建設促進
(2) 大型客船の誘致等ポートセールスの更なる強化
(3) 拠点港としてのターミナル機能等施設の検討
(4) 港湾施設の早期修復

11. 北陸新幹線“かがやき”的新高岡駅停車、“はくたか”的運行改善、“つるぎ”的乗継改善について

12. 市内主要道路及び東海北陸自動車道4車線化の整備推進について

〈その他〉

13. 高峰譲吉博士の顕彰事業の充実について

〈高岡商工会議所青年部 提案要望事項〉

- 大規模収容施設（高岡テクノドーム別館）の整備に伴うMICEへの支援について
- 高岡市の魅力情報の発信について
- エリアリノベーション拡大のための支援について
- 人材育成の支援について
- 企業のDX推進と国土強靭化について

PHOTO LIBRARY

Pick up



臨時（組織）議員総会

新役員・議員の任期スタート



高岡商工会議所 伝統産業部会／観光・サービス業部会合同視察会

名古屋の「ノリタケの森」などを視察

当所 伝統産業部会と観光・サービス業部会は、合同で名古屋への合同視察会を実施し、27名が参加した。視察では、世界的な陶磁器メーカー・ノリタケの産業観光施設「ノリタケの森」を訪れ、陶磁器製造の工程や企業の歴史、産業観光としての取り組みについて学んだ。また、名古屋を代表する商店街「大須商店街」を視察し、多様な店舗が軒を連ねるにぎわいを感じた。伝統産業の振興と観光資源の活用の両面から、多くの示唆を得る有意義な機会となった。



高岡商工会議所 流通部会視察会

富山市公設地方卸売市場他を視察

当所 流通部会では、富山市の「総曲輪ベース」および「富山市公設地方卸売市場」を11名が視察した。

再開発により地域密着型の商業拠点として再生を進める総曲輪ベースでは、地元企業と行政の連携によるまちなか活性化の取り組みを学んだ。また、卸売市場ではPPP手法を活用した全国初の再整備事例として、効率的な運営と商業機能との融合による地域流通の新たな可能性を確認した。



創業講座

全4回で体系的に学び、創業への第1歩を踏み出す

これから創業を目指す方や開業して間もない方などを対象に、創業の基礎知識を学ぶ創業講座を開講し、25名が参加した。第1回目は、丸亀中小企業診断士事務所の代表である中小企業診断士の丸亀 徹氏を講師に迎え、創業の心構えをはじめ経営全般の基礎知識に加え、人材の確保・育成など労務に関する説明を行った。参加者は全4回のカリキュラムを通じて、税務や販路開拓、資金調達・補助金申請に欠かせない事業計画書の作成方法などを学び、創業までの道のりを具体化していく予定である。



年末調整事務等説明会

令和7年度税制改正のポイントについて学ぶ

中小・小規模事業者を対象に「令和7年度税制改正に対応した年末調整事務等説明会」を高岡青色申告会と合同で開催し113名が参加した。税制改正により年末調整の手続きや実務内容に変更が生じることから、講師には高岡税務署職員を迎え、令和7年度税制改正の内容や税制改正に伴う年末調整事務について学んだ。また、電子帳簿等保存制度についても学び、今後の実務対応に役立てる内容となった。



若手社員フォローアップ研修

脱新人に向けて、意識を新たに！

入社後半年から3年以内の方を対象に、「若手社員フォローアップ研修」を開催し、18社48名が参加した。講師には、一般社団法人人材開発トータルサポート富山より野末 貴代氏、松崎 妙子氏、土屋 佳瑞氏の3名を迎える、電話応対などの基本的なビジネスマナーをはじめ、職場での円滑なコミュニケーションの重要性、ハラスメント防止の考え方、ストレスとの向き合い方などを学んだ。参加者は「脱新人」を意識し、自ら考え行動する社会人としての自覚を新たにしていた。



まちづくりの新たな指針 「経済界の考える都市デザイン」を策定

当所は、地域の将来像を見据えたまちづくりの新たな指針として「経済界の考える都市デザイン」を策定した。人口減少や産業構造の変化、AIをはじめとする急速な技術革新など、社会経済環境が大きく転換する中で、地域の持続的発展と次代を担う産業基盤の再構築として、観光産業を新たな「エンジン」として育てることを掲げ、経済界の視点から高岡の都市ビジョンを提示するものである。

今後は、この提案を基盤として、行政や地域社会とビジョンを共有し、協働を図りながら未来に向けたまちづくりの実現を目指す。

P H O T O
L I B R A R Y